

# 学園情報 172

2022年3月1日発行

AZABU UNIVERSITY 麻布大学 麻布大学附属高等学校  
麻布大学同窓会

今号テーマ

## 「勇往邁進」

【特集1】新学長のご挨拶

【特集2】SDGsの実現に向けた「脱・使い捨て」プロジェクトが始動



# NEXT AZABU CLUB

～目標に向かって突き進む、注目のクラブ～

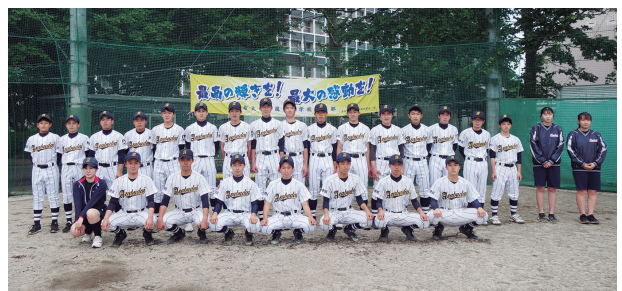
## 01 麻布大学 弓道部 獣医学部 獣医学科 3年次／今橋 愛果さん



### 文化系と思われがちだけれど実は長い歴史を誇る運動部

私たち弓道部は創部から45年を数える、麻布大学の運動部のなかでも長い歴史を誇る団体です。学内にある弓道場で、平日は基本的に16時から19時が活動時間。それ以降は自主練習を行っています。部の大きな目標としては、弓道大会での入賞をかけています。年間をとおして、神奈川県学生弓道連盟が主催する春・秋の大会、全関東学生弓道選手権大会、全日本学生弓道選手権大会（インカレ）、関東医歯薬系学生弓道大会などが開催されているため、これらの大会で個人や団体で好成績を残していくことをめざしています。弓道の魅力は、運動部でありながら体力がない人でもはじめられるところ。弓道着を着て弓矢をもつ姿がカッコいいところ。礼儀が身につく、姿勢がよくなること。自分のペースで練習を進めながら自分を高めていけることなど、たくさんあります。また、先輩や弓道経験者がマンツーマンで指導してくれるため、初心者でも安心してはじめることができます。

## 02 麻布大学附属高等学校 野球部 2年生／橋本 実来さん



### 野球を通して人としての成長を目指します

小・中学校で野球を続け、野球がとても好きだと実感していました。さらに、野球を通して自分を磨くために入部しました。週に6日活動があり、水曜日は主に筋トレ、日曜日は主に対外試合、それ以外は総合グラウンドで練習があります。練習ではチームプレーを意識し、打撃・守備の向上に努めています。野球部の魅力は1年生と2年生で仲が良いが、しっかりと上下関係も取れているところです。また、先生との距離も近くコミュニケーションがよく取れています。野球部では「一戦必勝」を目標に野球の技術だけでなく、学業と部活の両立、人間としての成長を心掛けています。活動実績として、春期・夏期・秋期の大会ではいずれも県大会出場を果たしています。今後は自分たちが練習してきたことを大会本番で100%出し切れるようにします。





#### 今号のテーマ「勇往邁進」

勇往邁進(ゆうおうまいしん)＝目標に向かって、わきめもふらず勇ましく前進すること。「勇往」は勇み、前へ進むの意。「邁進」は臆することなく、突き進むことの意。今号では、この言葉を座右の銘とされた新学長のご挨拶と、SDGs実現の一環としてスタートする「脱・使い捨て」プロジェクトについて特集しています。勇往邁進を形にするふたつの事例をご覧ください。

## CONTENTS

NEXT AZABU CLUB		〈トピックス〉	
[麻布大学]弓道部		●麻布大学	08
[麻布大学附属高等学校]野球部	02	●麻布大学附属高等学校	10
		●麻布大学同窓会	12
目次	03		
【特集1】新学長のご挨拶	04	退職教職員あいさつ	14
【特集2】		麻布大学ワンだふる本募金	
SDGsの実現に向けた		雑誌スポンサー募集	
「脱・使い捨て」プロジェクトが始動	05	編集後記	15

学園情報 **172**  
2022年3月1日発行



01

特集1

## 新学長のご挨拶

新たに学長に就任した川上泰学長に

これからの麻布大学の在り方についてその抱負を語っていただきました。



川上 泰

麻布大学 学長

INTERVIEW



## さらなる成長を遂げていくために 今こそ大学を改革する必要がある

令和3年11月より麻布大学の学長を拝命するにあたり、皆さまに謹んでご挨拶申し上げます。

麻布大学は、明治23(1890)年に與倉東隆先生が創設した東京獣医講習所を淵源として、これまで131年の歴史を積み重ねてまいりました。その間、社会はさまざまな変動をくり返してきましたが、昨今のわが国では、少子高齢化、働き方の多様化など、めまぐるしい変化が続いております。このような状況の中で、本学もその変化に対応していくことが急務となっております。私は自分自身の母校が、新たな時代にふさわしい成長を遂げていくための改革が、今こそ必要であるという強い決意のもと、学長に立候補させていただいた次第です。

まず、大学を改革するにあたって、私が一番大切であると考えているのは、麻布獣医学園全体の団結です。そして、私が麻布獣医学園の評議員や理事を務めさせていただいた頃から申し上げているように、正しい情報の共有が非常に重要であると考えております。さらに、女性教職員の活躍の場を広げ、本学の教職員がやりがいを感じながら働ける雰囲気と、教職員の能力を最大限に発揮できるような環境を整えていくことも、私が先頭に立って実現していく所存です。これらを実践していくため、今後、全教職員との個人面談を行っていく予定で、その過程で皆さんの新たな可能性を見出していきたいと思っております。

そのうえで、本学が抱えている大きな問題である志願者の確保に向けての対策については、現在進めている学部・学科改組構想の検討をさらに促進していきます。本学の2学部5学科の将来性を考慮しながら、入学者を安定して確保できる、より魅力的な教育・研究を展開可能な学部・学科体制の構築をめざすことを優先課題とし、これを迅速に進めてまいります。加えて、附属高等学校の協力や外部機関の情報を活用しながら、短期間で集中的に検討し、責任をもって改革の実施について決断いたします。これら諸課題の解決の実現に向けた新たな取り組みとして、学長の下に(仮称)大学改革室を設置いたします。この改革室では、スケジュールを明確にして定期的に協議を進めながら、学長主導の大学改革を進めていきたいと思っております。改革室を構成する委員には、私が学内から選出した人材に加え、学外からも招集し、改革案を客観的に評価していただくことも検討しております。

志願者及び入学者を増やす施策については、附属高校の先生方との連携をより深め、高校生の現状を把握したうえで、入試制度改革と戦略的な広報活動を展開していきます。特に学生確保には、入試・広報戦略が要となります。高校生が麻布大学に入学を希望してくれるような学部・学科にしていくことはもちろんですが、志願者確保に苦しんでいる学科においては、総合型選抜入試や指定校推薦入試での確実な入学者確保を実施していきます。そのうえで、偏差値を上げることを念頭に置き、入試日程の再検討を行っていくことで、受験機会を増やしていきたいと考えております。

次に、大学附属動物病院については、担当理事とのコミュニケーションを積極的にとりながら、今何が大切か、何を優先するべきかについて逐次相談し、増改築・改修工事を速やかに進めることをめざします。私は動物病院の施設や設備については門外漢ではありますが、学長として組織をまとも、スムーズな運営体制を構築していきたいと思っております。動物病院の信頼

性を確保していくため、組織の効率化などの改革についても、私自身が先頭に立って優先的に対処していく所存です。

## 「勇往邁進」という言葉のもと 日々努力を重ねていきたい

本学の研究面の実績に目を向けると、各所において非常に大きな成果を上げております。今後も、こうした状況を引き続き維持できるよう環境整備を行い、「研究の麻布大学」というイメージを定着させていきたいと考えております。これに関連しますが、私立大学等経常費補助金、私立大学等改革総合支援事業への取り組みについても、大学力の向上に向けて休むことなく改革を進め、少しでも多くの補助金を獲得して財政基盤の充実に貢献できるよう努めてまいります。

令和5年度には、全学の自己点検・評価及び獣医学教育評価を受審することになっております。私はこれまで認証評価の担当学長補佐として、全学の自己点検・評価を2回、獣医学教育評価を1回受審した際に、報告書の作成や実地調査に携わり、大学基準協会の評価委員として他大学の評価も経験してきました。次回の全学の自己点検・評価及び獣医学教育評価については、この経験を礎に、学長として自信をもって受審にのぞんでいきたいと思っております。この自己点検・評価については、ただ受審をするだけにとどまらず、教学マネジメントを確立し、大学教育の質保証を常に意識した本学の改革につなげていく所存です。

また、昨今では、志願者確保にも大きく影響する教育面の強化が必要となってきました。そのような中、本学の取組が文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業(出る杭を引き出す教育プログラム)」に採択されることとなりました。全国で唯一の採択となったこのチャンスをしっかりと活かし、今後に活かしていきたいと考えております。おそらく、これまでとはまったく違った取り組みを進めていくことになると思いますが、麻布大学の将来を考え、関係する先生方のご協力を得ながら、私自身も熱意をもってこれに取り組んでいきます。

これからの私立大学は、本当に厳しい時代を迎えていきます。これを強く意識したうえで教学の長として、大学全体のことを正確に把握しながら、理事会に要望を出す場合には、理事の方々に納得していただける説明ができるように尽力してまいります。With/After コロナ社会では、人々の価値観も大きく変わってくることが予想されます。学生確保の一環として、多様な学生の受け入れのため、セカンドキャリアをもつ社会への移行に必要な、リカレント教育を推進していくことも必要となります。これに対応するため、本学を退職した教職員の再雇用制度についても検討をはじめたいと考えております。

私は今回、学長を拝命するにあたって「勇往邁進」という言葉を自らの胸に刻み込みました。これは「目標をめざして勇ましく、わきめもふらず前進すること」を意味する言葉です。刻々と変化する時代において麻布大学が生き残っていくためには、これからの勝負です。生命・環境科学部の卒業生として、大学創立以来はじめて学長に就任することとなった私にしかできないことを常に考えながら、この言葉のとおり日々努力を重ねてまいります。これより令和7年3月まで、大学運営を担っていく責任の重さに身の引き締まる思いでございますが、麻布大学を愛するたくさんの方々の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



# SDGsの実現に向けた 「脱・使い捨て」 プロジェクトが始動

使い続ける消費文化の創造をめざす  
産学官連携の取り組みについて  
坂西梓里先生にお話を伺いました。

# 02

特集2



## INTERVIEW

生命・環境科学部 環境科学科 特任助教

## 坂西 梓里

まずはキャンパス内で消費される  
ペットボトルを削減していこう

麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科では、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて、現実の環境課題をテーマにした主体的な学びに力を入れてきました。その一環としてスタートしたのが、アサヒビール株式会社とパナソニック株式会社が共同で開発した、何度でも使える植物由来エコカップ「森のタンブラー」を活用した「脱・使い捨て」プロ

ジェクトです。

2020年2月に学術指導契約を締結したアサヒビール株式会社と本学が協働することにより始動した、当プロジェクトを立ち上げるにあたって、最初に学生たちから出てきたのが、「まず自分たちの足もとから見ていこう」という意見でした。そこで身近な使い捨てのシチュエーションを考えた結果、学生たちが注目したのが、本学のキャンパス内で消費されるペットボトルです。管財課の協力のもと調査を進めたところ、本学で排出されているペットボトルは、2018年のデータで年間5.42トン。これはペットボトルが1本あたり30グラムとすると、学生教職員ひとりあたりが年間64本排出している計算になります。まずはこの排出量を少しでも削減していこうという指針のもと、実施されるに至ったのが、「森のタンブラー」を用いた学内でのマイタンブラーキャンペーンです。

キャンパス内でのペットボトル消費削減と、「脱・使い捨て」に向けたライフスタイルの創出を目的とした、当キャンペーンの実施期間は2021年11月9日～2022年3月31日。モニターとなるのは麻布大学の学生・教職員



569名で、実施にあたってはプロジェクトメンバーがデザインしたオリジナルのフタ付きタンブラーを参加者に配布するとともに、ウォータースタンド株式会社の協力のもと学内に4台のウォーターサーバを設置し、マイタンブラーを利用しやすい環境を整備しました。効果検証に関しては、ウォーターサーバの給水量から具体的な削減効果を調査していくとともに、モニター参加者からの事前・事後アンケートにより意識の変化を確認していくこととなります。

2022年2月3日段階のデータでは、全体で13,352本のペットボトル削減効果が得られていることが判明しました。今後、マイタンブラーを利用することの意義をより実感できるように、自分たちの行動が二酸化炭素の排出削減につながっていることを示す数値データを見える化しながら活動を展開していきたいと考えています。

## SC相模原や町田市と協働して マイタンブラーの普及活動を展開

また、コロナ禍の影響により、学内でのマイタンブラーキャンペーンより先に実施されることになったのが、麻布大学がクリーンパートナー契約を締結しているサッカークラブ、SC相模原との取り組みです。もともとJリーグでは、スタジアム内にビン・缶を持ち込めないルールがあるため、使い捨てカップが大量に消費される傾向にありました。これに対してクリーンパートナーという形で、本学とSC相模原はデポジット制リユースカップを導入し、使い捨てカップの削減をめざしてきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、活動の中止を余儀なくされていました。そこで本学では新たに、サッカー観戦時に自分専用のタンブラーを持ち歩くという観戦スタイル「マイタンブラー制」を提案するに至りました。

実施に先立ち、「マイタンブラー制」が環境に配慮した取り組みであることをサポーターの皆さんに知っていただくため、2020年9月、SC相模原のホームスタジアム（相模原ギオンスタジアム）に展示ブースを設置。ポスターなどを使ってプラスチックゴミの問題や麻布大学の活動を紹介しました。また、SDGsの認知度や森のタンブラーへの関心などのアンケートをとり、回答していただいた方のなかから抽選で、ガミティー（SC相模原のマスコット）や本学とアサヒビールロゴが入った森のタンブラーをプレゼントす

るなど、マイタンブラー製の普及活動を展開しました。

ほかにも、町田市と協働で「森のタンブラー」を用いた活動がはじまっています。町田市では、来店者が持参するマイボトルやマイカップに飲みものを提供可能で、マイボトルなどの利用促進に協力する店舗を「マイボトルOK店」として認定していますが、このPR活動に本学の学生たちが協力することとなりました。2021年11月21日には、町田市の芹ヶ谷公園にて開催された、公園の将来の姿を想像（創造）する公園活用実証実験「FutureParkLab（フューチャーパークラボ）」に参加し、「まちだエコ探偵団！ 探してみよう！マイカップ・エコタンブラーを使えるお店」と題して、その利用を促進するイベントを実施。今後は、学生目線によるマイボトル利用のメリットやデメリットなどを洗い出しながら、使い続ける消費文化の社会啓発に取り組んでいく予定です。

## ちょっとした行動であっても 世界中の人が行動すれば未来は変わる

こうした産学官が連携した取り組みを体験した学生たちの多くは、実際に企業の方などと話をしたり、一緒に企画を考えたりすることに、大きなやりがいを感じたようです。使い捨ての問題に関心をもってもらうよう伝えることに苦労する様子も見られましたが、来場者の方々から「プラスチック等のゴミ問題に目を向けるきっかけとなった」といったコメントを多数いただくことで、活動へのモチベーションにつながったようです。脱炭素やSDGsといった現実の課題に関しても、これまではメディアで見聞きするものの、なかなか実感をとまなくて理解することが難しかったことがらが、有名企業や自治体が主要な事業として取り組んでいることを目の当たりにすることで、その重要性を肌で感じられたという声も聞かれました。

環境課題を解決することは決して簡単ではありませんが、一人一人の行動が大きな意味を持つと思います。たとえば、ペットボトル飲料を購入したとしても、飲み終わったあとにキャップをはずし、ラベルをはがしてから資源ボックスに捨ててリサイクルにまわすだけで、未来は変わります。学生の皆さんには、今回の活動をきっかけにそうした意識を強くもっていただき、より多くの人たちが使い続ける消費文化を創造していくことに貢献していただければと思います。





# TOPICS AZABU UNIVERSITY

## 第114回日本繁殖生物学会で 口頭優秀発表賞を受賞

9月23日(木)

第114回日本繁殖生物学会大会(京都大学・オンライン開催)にて、動物繁殖学研究室所属大学院3年生 並木貴文さんが、口頭発表2次審査で優秀発表賞を受賞しました。

## ティーチング・ポートフォリオを 公開

10月14日(木)

ティーチング・ポートフォリオの公開により、各教員が、研究者としての専門分野や研究業績の公表とともに、教育への取組みを自ら明確に紹介することで、教育と研究を両輪にした高等教育の質の向上及び改善を目指して強化していきます。

## 環境科学科とJR東日本環境アクセスとの社会連携型PBLが 今年もスタート!

10月15日(金)・23日(土)

環境科学科では、株式会社 JR東日本環境アクセスのご協力の下、昨年度に引き続き「環境フィールドスタディ(2年次選択科目)」において社会連携型PBL(Project Based Learning)を開始しました。この取組は、環境科学科の新・教育プログラムの一つとして開始し、今年で3年目を迎えました。

実社会のリアルな課題を知り、その課題解決に挑戦することで学びの動機を引き出すとともに、「問題を発見する」能力を磨き、チームで相互に知識を共有しながらコミュニケーションをとることで、「チームでの課題解決力」を高めます。

10月15日、第1回のフィールドワークとして、横浜駅を見学しました。

10月23日、第2回のフィールドワークとして、JR東日本東京資源循環センターを見学しました。

## 日本小児歯科学会関東地方会 でスチューデントアワードを受賞

10月17日(日)~24日(日)

日本小児歯科学会・第36回関東地方会大会・総会(Web開催)で、食品生理学研究室より発表した演題「ルテインによるフェニトイン性歯肉増殖症の予防・緩和効果」が松風スチューデントアワードに選ばれました。発表者の食品生命科学科3年次 今村夢香さんにトロフィーと副賞が贈られました。

## 「たんぼぼあだぶしょんぱあく」と保護動物の避妊去勢手術を含めた獣医療行為に係る協定書を締結

10月27日(水)

麻布大学は、「たんぼぼあだぶしょんぱあく」と保護動物の避妊去勢手術を含めた獣医療行為に係る協定書を締結しました。

「たんぼぼあだぶしょんぱあく」は、保護された猫・小型犬を治療及び保護をし、引き取りたい里親さんに引き渡す譲渡施設「たんぼぼの里」を運営しています。

「たんぼぼあだぶしょんぱあく」の小さな命のバトンをつなげる活動に、本学の獣医学の誠実なる実践をもって貢献いたします。

## 動物慰霊祭を執り行いました

10月29日(金)

本学キャンパス内の学生ホール南側にある畜魂碑前にて、動物慰霊祭を執り行いました。動物慰霊祭は、毎年度新たに教育及び研究のために尊い命を提供され、生命科学の研究に貢献された動物たちの諸霊に対し、心から哀悼の誠を捧げる目的で行っています。2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策に伴い学内の一部教職員及び学生の代表者のみが集まり、献花を手に動物たちの冥福を祈りました。



## WEBオープンキャンパス2021 を開催

10月30日(土)・31日(日)

大学受験を目指す高校生や家族、高校教員の方々が、新型コロナウイルスの感染リスクを気にすることなく、WEB会議システムのZoomを使用して、麻布大学の学びや研究活動についてわかりやすく紹介しました。



## オンラインで麻布大学祭を開催

10月30日(土)・31日(日)

2021年度麻布大学祭は、YouTubeLIVEを利用し、オンラインで開催しました。様々なステージ発表や学生企画のほか、お笑いライブやトークショーをお届けし、たくさんの方にご覧いただきました。





## ～トピックス 麻布大学～

### フードトラックによるテイクアウトを開始

11月1日(月)

学生の福利厚生サービスの充実を図るため、フードトラックによるテイクアウトメニューの販売を開始いたしました。



### 来校型の入試相談会を開催

11月3日(水)

新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら、対面での相談会を行いました。参加者は来る入学試験のため、熱心に話を聞いていました。



### 麻布獣医学園記者交流会を開催

12月2日(木)

第I部では、小倉弘明 理事長による挨拶から始まり、川上泰 学長による挨拶、大学の近況報告等、村山史世 准教授、坂西梓里 特任助教及び参加学生による本学のSDGs取組紹介を行いました。

第II部では、写真撮影後、情報交換会を行いました。

今回は、理事長及び学長が新しく就任され、川上学長は、本学園創立以来131年の歴史の中で、獣医学部以外の初めての出身者です。

また、世界的にSDGsへの関心が高まる中で、本学のSDGsへの取組として、本学環境科学科が学内における森のタンブラーキャンペーン活動を中心に紹介されました。



### 麻布大学父母会の学生支援企画として100円弁当を販売

12月8日(水)

麻布大学父母会のご協力の下、麻布大学生協販売店にて、12月8日から期間及び販売数限定で、100円でお弁当を販売しました。コロナの影響により、困窮している学生のため、学生生活の一助として、麻布大学父母会からご支援いただきました。



### Meiji Seika ファルマ株式会社との寄附講座「AMR Surveillance Laboratory」調印式を執り行いました

12月14日(火)

麻布大学とMeiji Seika ファルマ株式会社は、寄附講座設置に関する協定書を締結し、調印式ならびに記者説明会が、執り行われました。

本寄附講座では、全国の家畜疾病または飼養環境由来の検体を収集し、分離菌株の薬剤感受性傾向や薬剤耐性遺伝子の保有状況などを調査して基礎データを蓄積し、アンチバイオグラムを作成することでAMR抑止の方策を模索することを目的とします。

河合一洋教授は、Meiji Seika ファルマ株式会社と寄附講座AMR Surveillance Laboratory (AMRSL)を開設し、薬剤耐性に関する研究を行うことで成果を社会に還元し、貢献していきます。



### 第26回日本生殖内分泌学会で学術奨励賞を受賞

1月8日(土)・9日(日)

金沢で開催された第26回日本生殖内分泌学会で、動物応用科学専攻博士課程後期3年次 並木貴文さん(動物繁殖学研究室)が学術奨励賞を受賞しました。

### 第27回日本臨床エンブリオロジスト学会で若手優秀演題賞を受賞

1月9日(日)

横浜で開催された第27回日本臨床エンブリオロジスト学会で、動物応用科学科4年次 木下瑠夏さん(動物繁殖学研究室)が若手優秀演題賞を受賞しました。

### 麻布出る杭シンポジウムを開催

1月21日(金)

本学は2020年度より、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業：メニューII. 出る杭を引き出す教育プログラム」に全国で唯一採択され、「麻布出る杭プログラム」として、高大連携を強化しながら、「動物共生科学ジェネラリスト」の育成に取り組んでいます。

本シンポジウムでは「麻布出る杭プログラム」の事業紹介の他、今後の教育のあり方について、各界の著名な先生方にご講演いただきました。

### 後期定期試験をオンラインで実施

1月31日(月)、2月7日(月)～18日(金)

麻布大学後期定期試験は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、GoogleフォームやGmailを用いてオンラインで実施しました。また、端末や通信環境に不安がある学生のため、学内受験を希望する学生のため、試験時間中は「パソコン教室」を解放するなどして対応しました。



# TOPICS AZABU UNIVERSITY HIGH SCHOOL

## 3学年文化祭

10月8日(金)

できるんですか? どうせできないですよね?

9月の文化祭が延期になり、こんな言葉しか聞こえなかった。

やりたいのか?そもそもやれんのか?どうせやるなら出てこいや!!

全教員協力のもと何とか3年生の思い出確保へ奮闘する日々。

苦しかったなあ、でも楽しかったなあ。

何かを生み出す作業は容易ではなく、何かの懸念がついて回る。

しかし、それをも上回る「執念」「信念」が現実を作り出す。

さて、君たちは思い出の中にどんな「信念」を抱けたのだろうか。

## FOR OUR SMILE

Azabu Univ.HS promoters



© FOS-labo





## ～トピックス 麻布大学附属高等学校～

### 球技大会

11月19日(金)

あるスペイン人指導者は言った。  
「規律ある子どもたちが、秩序のないプレーをする」と。  
これは日本人プレーヤーまたは指導者を揶揄した言葉だ。

球技大会とは  
そんなプレーモデル優先の考えとは程遠い  
数ある戦術にとらわれない、彼らだけの戦術を持つ大会なのだ。

その戦術こそが 「笑顔」 である。  
「戦術」=「笑顔」 なんと素敵なことでしょう。



### これからのイベント

●9月

3年生 文化祭



●10月

前期期末試験

2年生 修学旅行

1年生 社会見学



●11月

芸術鑑賞会]

球技大会



●12月

後期中間試験



●令和4年1月

英検1次試験受験

●2月

英検2次試験受験  
(外部会場)



●3月

卒業式

1・2年生 学年末試験

修了式

離任式





# TOPICS AZABU UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

## 動物応用部会「第6回 卒業生と在学生の集う会」開催 11月13日(土)

コロナ禍で緊急事態宣言が解除されず、多くの同窓会事業が中止となる中で動物応用部会ではオンラインによる「卒業生と在学生の集う会」を参加卒業生22名、参加在学生140名(2年生、3年生)で開催しました。

福山同窓会長の御挨拶、川上学長の来賓の御挨拶に続き、卒業生によるパネルディスカッションが開催されました。

テーマは「**私流の仕事選び 自由な仕事選び 多様性の世界**」、卒業生は自分の進路と就職先選びについての在学、卒業時の考えと現在の自分の状況を比較しながら、将来に秘められた卒業後の可能性を多くの卒業生によって語られました。

パネルディスカッションに続き、オンライン会議方式で13業界ブース(医薬品、動物薬、実験動物、畜産関係、動物園、自然環境保全、ペット業界、野生動物管理、地方公務員、国家公務員、大学教員、教育機関(大学・高校)、社会福祉)が設定され、卒業生による各業界の概要説明、卒業生と学生とのフリートーキングが行われました。

学生は興味あるブースを選択し、各業界説明、在学中から進路決定までの道のり、人との出会い、数々のエピソードに耳を傾けていました。

また、学生は自分自身の将来に対する不安、進路決定に対する悩みを投げかけ、どうすれば将来の夢が叶えられるのかを卒業生に問いかける場面が多く見られました。

卒業生は麻布大学動物応用科学科では多岐にわたる学問を学び、4000人を超える先輩が多彩な分野で活躍している事を学生に提示し、自分の可能性を信じて興味ある事にチャレンジ精神を持

って進路選択に臨んで欲しい事を訴えていました。

### 【学生からのアンケート結果 抜粋】

今回の『卒業生と在学生の集う会』に参加していかがでしたか？

すごく良かった:28.8% 良かった:65.1%

どちらでもない:6.1% 悪かった:0% すごく悪かった:0%

- ① 将来の夢、なりたい職業を少しずつ考えなければいけないというのを最近感じ、まだ何も決まっていなかった事への焦りもある中でこの会に参加しとても参考になった。
- ② 興味のある仕事を経験した方のお話やその仕事に就くまでの過程を詳しく聞くことができた。
- ③ 自分が知らない職業を知り、違う業界にも目を向けることが出来たこと、興味を持てることができた。
- ④ 実際に働いている人の声を聞いたのが良かった。
- ⑤ これからの人生の励みになる言葉が心に残った。
- ⑥ 様々な業種・業界の卒業生の方々から、その業界の詳しいお話や質問応答などをする機会が出来た。
- ⑦ 就活へのモチベーションが上がった。
- ⑧ やりたい職業、興味のある職業がわからなかったが、話を聞いてある程度方向性が定まった。

最後に、今回の開催に際して多大なご協力をいただきました先生方、卒業生の皆様に感謝を申し上げます。

動物応用部会代表 笠原年春  
(昭和61年環境畜産学科卒業)





## ～トピックス 麻布大学同窓会～

### 麻布大学同窓会の新型コロナウイルス感染症に対する学生への支援について

麻布大学同窓会(会長 福山守)は、次のとおり新型コロナウイルス感染症により経済的に困窮する本学の学生を支援しています。

奨学金(無利子貸与)の貸与条件及び手続きを次のとおり緩和し、利用し易くしました。気軽にご相談ください。

#### 「学納金対象奨学金」(既存)

- ① 返済開始時期を卒業後2年から5年とします。
  - ② 返済期間を5年間から10年間とします。
  - ③ 連帯保証人を2人から1人とします。
  - ご相談はテラスいちょう2階同窓会事務室へ
- 電話: 042-769-2183 E-mail: doso@azabu-u.ac.jp

#### ■奨学金を受けた学生さんからのお礼

この度は、同窓会奨学金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。私の両親は共働きで、自分自身もアルバイトや他の奨学金をお借りしておりますが、コロナ禍で家庭の経済状況やアルバイトの制限など、修学が困難な状況でした。本奨学金はコロナ禍で貸与条件が緩和され、将来安心して返還することができると思い、学業に専念することができました。4月からは麻布大学卒業生として、誇りを持って社会に貢献していきます。最後になりますが、奨学金を受給させていただきました同窓会の皆様に心よりお礼申し上げます。

動物応用科学科4年

この度は、同窓会奨学金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。コロナ禍により、家庭の経済状況の悪化に加え、私自身もアルバイトを退職してしまったために授業料を捻出できずにいたところに本奨学金をご紹介いただきました。本奨学金のご支援のおかげで学業に専念することができました。また、コロナ禍ということで奨学金貸与条件の緩和措置をとっていただいたおかげで無理なく返済できる計画を立てることができ、安心して本奨学金を受給することができました。残り一年となる学生生活を悔いの残らぬよう、過ごしていきたいと考えております。最後になりますが、本奨学金に携わる皆様に重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

環境科学科3年

### 第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会及び第21回アジア獣医師会連合大会 福岡開催時における麻布大学同窓会交流会開催のご案内

本年11月11日から13日に開催されます標記学会・大会に伴い、同窓会交流会を開催計画いたしました。

なお、学会・大会会場における同窓会ブース設置につきましては、未だ決定しておりませんので、追って(麻布大学同窓会HP等で)お知らせいたします。

#### 【麻布大学関係者交流会】

日時: 令和4年11月11日(金)

18時30分～20時30分(受付18時00分～)

会場: ホテル モントレ ラ・スール福岡 2階「ヌーヴォ」  
(学会会場とは別会場)

福岡市中央区大名2-8-27 TEL: 092-726-7050

交流会費: 6,000円(事前振込・振込手数料はご負担下さい)

7,000円(当日受付)

※準備の都合上大変お手数ですが、できるだけ事前(10月末まで)に参加申込みいただきますようお願いいたします。

#### 振込先: ●ゆうちょ銀行から

払込先口座番号/17450-79404411

加入者名(口座名義)/麻布大学同窓会福岡県支部

#### ●ゆうちょ銀行以外の銀行から

銀行名/ゆうちょ銀行(金融機関コード9900)

支店名/七四八(ナナヨンハチ)

預金種目/普通

口座番号/7940441

※申込確認票は発行いたしませんので、

念のため振込票の控をお持ちください。

※領収書は、交流会当日受付にてお渡しいたします。

#### 問合先: 福岡県支部事務局 永田朋子

E-mail azabu-f2022j@ina.bbqi.jp

T E L 092-891-7499(折り返し専用)

# GREETING

## ～退職教職員あいさつ～

● 在職中の思い出や感想を漢字1文字で例えると ① 在職中の一番印象に残った出来事 ② メッセージ



歴

麻布大学には130年の歴史があり、学生と教員にも個々の歴史があります。それぞれの歴史が交錯するなかで、自分にできることは何かを考え続けた10年でした。

獣医学部 獣医学科 衛生学第二研究室

教授 塚本 健司

① 国際交流委員長に就任した私に留学生の受入体制の構築を考えて欲しいと諮問がありました。麻布大学に相応しい国際化の在り方を検討した結果、黄先生が頑張って推進されていた「さくらサイエンス事業」を継続して、本学教員と大学院留学生の候補者とのマッチングの機会にする案を考えました。しかし、大学院留学生の受入れは行わないことになりました。今思うことは、麻布大学にできる国際化とは、海外から大学院生を受入れることではなく、専門分野だけでなく、国際的教養と基本的な専門英語を身につけさせることだと思います。② 日本人には、「起こって欲しくないことを議論しない癖」があります。このため、「計画通りに進まなくなった時の備えをしない」のですが、事と事情によっては、「先回りして、計画の弱点に備える」ことも大切です。



敬

敬うことを大事にしたい。

獣医学部 動物応用科学科 動物工学研究室

教授 滝沢 達也

① 東日本大震災とその後の本学の様子。② 採用された年が平成4年だったので、その前年に施行された大学設置基準の大綱化を端緒とした「改革」に覆い尽くされた在職期間だったと感じています。本学においては老朽化した建物等の新築が進むにつれて、求められていた「改革」が少しずつ始まったように思います。物理的なキャンパスの環境整備が進んで、ようやくソフトの組織改革・教育改革が本格化したということでしょうか。さらに、この2年に及ぼしたコロナ禍の下で顕在化してきた諸課題は、本学における「改革」のあり様を、様々な矛盾の解消を必要とする段階に進めているようにも感じられます。振り返ってみると、本学で遭遇してきたことの大半は生き残るための対策の一端だったのだと感じます。在職30年間、ただただお世話になりました。ご指導、ご支援いただいた皆様に心から御礼申し上げ、本学園の益々の発展と皆様のご多幸を心より祈念申し上げます。



謝

多くの学生さんとの出会い、刺激的な研究者との出会い、異分野の研究者との共同研究やプロジェクト、充実した設備と環境。13年間のすべてに感謝します。

獣医学部 動物応用科学科 野生動物学研究室

教授 南 正人

① 赴任した最初の年に、動物応用科学実習の引率で富士朝霧高原の富士ミルクランドに行きました。つなぎを着た学生がどろどろになりながら動物の世話や牧場の作業をしていました。男子学生も女子学生も笑顔が溢れていました。本当に良い大学に職を得たと思いました。あの時の笑顔は忘れられません。② 大学教育も転換点に来たように思います。若い世代の人数の減少、コロナ禍でのリモート環境の発展などは、新たな魅力的な大学のあり方を求めていると思います。麻布大学には、私立大学としてもっと大胆に授業形態や授業内容を変革し、日本の大学教育の新しい展開を切り開くことが期待されていると思います。その中で研究活動の充実と教育の質の向上が実現すると思います。麻布大学の新たな発展に期待したいと思います。13年間、ありがとうございました。



泡

なんとなく。

附属動物病院 小動物臨床研究室

教授 斑目 広郎

① アフリカから空輸された病理検査材料を入れた小包の中でハナムグリが生きて動いていたこと。② 「学びの庭」を継続させてください。地力厚生。



楽

生徒達とのふれあいはやり直しの効かない真実勝負。ハラハラドキドキの連続の毎日がとても新鮮でした。とても楽しく充実した日々を送ることができました。

麻布大学附属高等学校

教諭 加藤 政博

① 30年程前の修学旅行での出来事。沖縄から宮崎までフェリーで行く途中の船内で、持病が悪化し身動きが取れなくなった生徒を緊急停船してもらい、奄美大島の病院に連れて行ったところ、点滴治療が必要となりました。しかも一昼夜という診断で、当然船を遅らせることは出来ないということで当時の学年主任のお願いで添乗員とそこの病院に残りました。時刻は午後8時30分ぐらいで、それから保護者に引き渡す翌日の午後3時ぐらいまで生徒のベッドのよこで2時間おきに点滴補充を看護師に伝えるため、時には仮眠のため4時間交代で付き添い看病したことが今となっては一番の印象的出来事です。② 大した功績も残せず退職してゆくことは誠に遺憾ですが、この先未来永劫に高校、さらには麻布獣医学園が益々発展してくれることを切に願ひ私のメッセージとさせていただきます。長年にわたる大変お世話になりました。



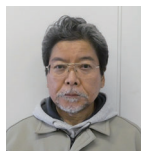
解

日々の様々な問題を全て解決することは難しいですが、問題を把握・分析して解き明かして、適切に対処することで良い方向に向かわせたいという心持ちで過ごしていました。

事務局

事務局長 西出 尋之

① 最後の2年は印象に残り、新型コロナウイルス感染拡大、緊急事態宣言、まん延等防止等重点措置、PCR検査キットの度重なる発注、ワクチン接種、等々新型コロナ対応で改めてニューノーマルの意味を考えさせられました。また、学長、学部長、学科長の先生方と一緒に学生と懇談ができ、学生のしっかりした考えも聞ける機会をいただけたことも印象に残っています。② 大学を取りまく環境は厳しいものでありますが、「実学の麻布大学」の力を発揮して様々な壁を突破して持続的な発展をされることを願っています。無事退職を迎えることができ、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



和

麻布のメンバーが相互に助け合い、協力し合ってこそ、一つ一つの目的を達成できるのだという事を、強く感じております。一番大切な言葉、まさに「和」です。

事務局 総務部 管財課

主査 神藤 昭

① 在職中の思い出で、今でも思い出すのは、大学院の設置申請に当たり、プロジェクトを組み、皆で担当を分け、協力しあって、申請書類を提出。結果を待っていたところ、ついに認可が下りました。その吉報を聞いた瞬間、プロジェクトのメンバーは拍手、歓声、私も鳥肌が立つ思いでした。これも「和」がなせる業ですね。② 大学をめぐる環境は多くの課題を抱えています。どうか皆様、健康には十分ご留意され、麻布獣医学園を支えてってください。長い間、大変お世話になりました。なお、退職後は、私の生んだ学術情報センターのキャラクター（しおりん&フルボン）2人が、微力ではありますが、知的財産の端くれとして頑張っていると思いますので、どうか皆様、可愛がってください。





## 麻布大学 ワンだふる 本募金

### 麻布大学ワンだふる本募金とは？

在学生、ご父母、卒業生、教職員、近隣住民のみならず、読み終えた本や、不要になったCD、DVD、ゲームソフトなどを提携業者にお送りいただき、提携業者が買い取った金額を、みなさまからの寄付金として麻布大学に全額寄付いただき、学生用図書資料購入や環境整備等に充てるプロジェクトです。

【かんたん申込み】●ご自宅では段ボール箱に詰めてWEBから申込みをするだけです。●5点以上ならば送料はかかりません。

お申し込みは、WEBで受け付けています。

買取査定についてなど、

詳細はこちらのホームページをご覧ください。

<https://www.charibon.jp/partner/azabu-u/>

※書籍等の集荷については、株式会社バリューブックスに運営をお願いしています。



マスコットキャラクター  
フルボン



## 雑誌 スポンサー 募集

### 雑誌スポンサー(広告主)を募集します。

スポンサーになっていただくと新刊雑誌のカバーに広告を掲載することができます。雑誌は、学生をはじめ図書館利用者が閲覧しますので、宣伝や地域のPRに最適です。

【スポンサー特典】●図書館所蔵の図書を借りることができます。●他の図書館等との相互利用サービス<sup>※1</sup>を利用<sup>※2</sup>できます。

※1 本学で所蔵していない資料を他大学等に複写依頼できるサービス ※2 基本料金+複写料金+送料がかかります。

【募集対象】 企業、団体のほか個人も受け付けます。(※審査あり)

【スポンサー料】 雑誌の年間購読料

【対象雑誌】 図書館で指定する雑誌リストからお選びください。

【広告規格】 ●カバー表:縦10cm×横17cm

●カバー裏:カバーのサイズを超えない範囲

●雑誌架:雑誌架の扉のサイズを超えない範囲

お申し込み方法など、

詳細はこちらのホームページをご覧ください。

[https://library.azabu-u.ac.jp/azlib/sponsor/sponsor\\_info.pdf](https://library.azabu-u.ac.jp/azlib/sponsor/sponsor_info.pdf)

マスコットキャラクター  
しおりん



### 編集後記

今号の「特集1」では、これからの麻布大学を牽引される新学長(2021年11月就任)のご挨拶を、「特集2」では本学が目指すSDGsの実現に向けた特徴的な「脱・使い捨て」プロジェクトを取り上げました。教員(坂西特任助教)、学生と企業が一丸となって環境問題解決に取り組む様子について紹介しました。坂西先生が所属する生命・環境科学部環境科学科では、環境に関して将来起こりうる課題を予測・発見・把握し、その課題の解決を目指す新しい科学領域「未来共生科学」を提案しています。その教育プログラムの一つとして、

企業等と協働で課題解決に取り組む社会連携型プロジェクト学習を強化しています。今後も学園として、生態系・地域社会・健康の各視点から、地球共生系において将来的に起こり得る様々な課題の解決に向けて、より一層の教育・研究に励んでまいります。最後になりましたが、今年度をもって退職される教職員の方々におかれましては、長年にわたり本学園の発展のために御尽力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

学園広報委員会委員長 村上 賢

# 地球共生系

～人と動物と環境の共生をめざして～

麻布大学の建学の精神は「学理の討究と誠実なる実践」です。

本学は、創設者よくら はるたか與倉東隆先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、

人と動物との共存および人と自然環境との調和の途を探究することを目的として

獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学および環境科学に関する専門の知識を教授研究し、

その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、

平和社会の建設に貢献することとしています。

## 大学

〔獣医学部〕

- 獣医学科
- 動物応用科学科

〔生命・環境科学部〕

- 臨床検査技術学科
- 食品生命科学科
- 環境科学科

## 大学院

〔獣医学研究科〕

- 獣医学専攻（博士課程）
- 動物応用科学専攻（博士前期・後期課程）

〔環境保健学研究科〕

- 環境保健科学専攻（博士前期・後期課程）

## 麻布大学附属高等学校

- 普通科

## 附置・附属機関

- 附置生物科学総合研究所
- 附属学術情報センター
- 附属動物管理センター
- 附属動物病院
- 附属教育推進センター
- 研究推進・支援本部
- 地域連携センター
- 麻布大学いのちの博物館
- 健康管理センター
- 麻布大学フィールドワークセンター

## 学園情報 172

AZABU UNIVERSITY 2022年3月1日発行

発行／学園広報委員会

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 TEL.042-754-7111（代表）



学校法人 麻布獣医学園

麻布大学

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-754-7111（代表）

TEL 042-769-2032 総務部 広報課 直通

FAX 042-850-2505 総務部 広報課 専用

ホームページ <https://www.azabu-u.ac.jp/>

Eメール [koho@azabu-u.ac.jp](mailto:koho@azabu-u.ac.jp)

総務部 広報課



## 麻布大学附属高等学校

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-50

TEL 042-757-2403 FAX 042-751-6280

ホームページ <http://www.azabu-univ-high-school.jp/>

## 麻布大学同窓会

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-769-2183 直通 FAX 042-759-0337

ホームページ <https://azabu-doso.com/> Eメール [doso@azabu-u.ac.jp](mailto:doso@azabu-u.ac.jp)